

【資料 1-2-③】

警報等の発表基準（特別警報を含む）

表1 警報・注意報の基準（風水害）

警報等名		基準値
暴風		陸上：平均風速 20m/s 海上：平均風速 25m/s
暴風雪		陸上：平均風速 20m/s 海上：平均風速 25m/s かつ雪を伴う
波浪		有義波高 3.0m
高潮		潮位 3.5m
大雨	(浸水害)	表面雨量指数基準：33
	(土砂災害)	土壌雨量指数基準：140
洪水	流域雨量指数基準	内部川流域＝12.5 朝明川流域＝21.8 海蔵川流域＝15.7 三滝川流域＝23.2 天白川流域＝17.9 鹿化川流域＝10.8
	指定河川洪水予報による基準	鈴鹿川及び鈴鹿川派川【高岡】
大雪		12時間降雪の深さ 20cm
記録的短時間大雨情報		1時間雨量 120mm

注意報名		基準値
強風		陸上：平均風速 13m/s 海上：平均風速 15m/s
風雪		陸上：平均風速 13m/s 海上：平均風速 15m/s かつ雪を伴う
波浪		有義波高 1.5m
高潮		潮位 1.5m
大雨	表面雨量指数基準：13	
	土壌雨量指数基準：95	
洪水	流域雨量指数基準	内部川流域＝10 朝明川流域＝17.4 海蔵川流域＝12.5 三滝川流域＝18.5 天白川流域＝14.3 鹿化川流域＝8.6
	複合基準※ ※（表面雨量指数、流域雨量指数）の組み合わせによる基準値を表しています。	鈴鹿川派川流域＝(8, 7.1) 内部川流域＝(13, 8) 海蔵川流域＝(8, 12.5) 三滝川流域＝(13, 14.8) 天白川流域＝(8, 14.3) 鹿化川流域＝(8, 8.6)
	指定河川洪水予報による基準	鈴鹿川及び鈴鹿川派川【高岡】
大雪		12時間降雪の深さ 5cm
雷		落雷等により被害が予想される場合
乾燥		気象官署の最小湿度：30% かつ実効湿度：60%
濃霧		陸上：視程 100m 海上：視程 500m
霜		晩霜期に最低気温が 3℃以下
低温		冬期最低気温が -5℃以下
着氷・着雪		著しい着氷(雪)が予想される場合

- 注1) 気象官署とは、津地方気象台、尾鷲測候所、上野及び四日市特別地域気象観測所をいいます。
- 注2) 土砂雨量指数は降雨による土砂災害発生の危険性を示し、土壌中に貯まっている雨水の量を示します。市町内における基準値の最低値を示します。
- 注3) 流域雨量指数は、降雨による洪水災害発生の危険性を示し対象となる地域・時刻に存在する流域の雨水の量を示します。
- 注4) 平成22年5月27日からは、市町別に注意報・警報が発表されています。

表2 津波警報等の発表基準と発表表現

警報名、注意報名	発表基準	発表表現	
		数値での発表	巨大地震の場合の表現
大津波警報	10 m < 高さ	10 m 超	巨大
	5 m < 高さ ≤ 10 m	10 m	
	3 m < 高さ ≤ 5 m	5 m	
津波警報	1 m < 高さ ≤ 3 m	3 m	高い
津波注意報	0.2 m ≤ 高さ ≤ 1 m	1 m	(表記しない)

表3 気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	特別警報の基準	指標
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	雨を要因とする特別警報の指標
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合	台風等を要因とする特別警報の指標
高潮	高潮 高潮になると予想される場合	
波浪	波浪 高波になると予想される場合	
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	雪を要因とする特別警報の指標
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

表4 特別警報の指標

指標	条件
雨を要因とする特別警報の指標	以下①又は②いずれかを満たすと予想され、かつ、更に雨が降り続くと予想される場合 ① 48時間降水量及び土壌雨量指数※1において、50年に一度の値以上となった5km格子が、共に府県程度の広がり範囲内で50格子以上出現。 ② 3時間降水量及び土壌雨量指数※1において、50年に一度の値以上となった5km格子が、共に府県程度の広がり範囲内で10格子以上出現(ただし、3時間降水量が150mm※2以上となった格子のみをカウント対象とする)
台風等を要因とする特別警報の指標	「伊勢湾台風」級(中心気圧930hPa以下又は最大風速50m/s以上)の台風や同程度の温帯低気圧が来襲する場合
雪を要因とする特別警報の指標	府県程度の広がりをもって50年に一度の積雪深となり、かつ、その後も警報級の降雪が丸一日程度以上続くと予想される場合

※1 土壌雨量指数：降った雨が地下の土壌中に貯まっている状態を表す値。この値が大きいほど、土砂災害発生危険性が高い。

※2 3時間降水量150mm：1時間50mmの雨(滝のようにゴーゴー降る、非常に激しい雨)が3時間続くことに相当。

表5 雨に関する50年に一度の値一覧

50年に一度の値			警報基準
R48	R03	SWI	SWI
419	189	285	140

※1 略語の意味は右のとおり。R48：48時間降水量(mm)、R03：3時間降水量(mm)、SWI：土壌雨量指数(Soil Water Index)。

※2 「50年に一度の値」の欄の値は、各市町村にかかる5km格子の50年に一度の値の平均値をとったものである。

※3 降水量の警報基準については、市町村によって1時間降水量や3時間降水量を指標にしているなど一概に比較できないことから、本表には掲載していない。

※4 R48、R03、SWIいずれについても、50年に一度の値は統計値であり、一の位の大小まで厳密に評価する意味は無い。

※5 特別警報は、府県程度の広がり度で50年に一度の値となる現象を対象。個々の市町村で50年に一度の値となることのみで特別警報となるわけではないことに留意。

表6 50年に一度の積雪深と既往最深積雪深一覧

50年に一度の積雪深(cm)	既往最深積雪深(cm)
-	53

※1 “-”の地点は、データ不足のため、50年に一度の値が算出できないもの。

※2 50年に一度の値は統計値であり、一の位の大小まで厳密に評価する意味は無い。

※3 特別警報は、府県程度の広がり度で50年に一度の値となる現象を対象。

個々の地点で50年に一度の値となることのみで特別警報となるわけではないことに留意